

48 『坂下宿』

難所の鈴鹿峠への登り口にある宿



本陣 3軒
脇本陣 1軒

3軒ある本陣の内の1つ大竹屋本陣の
にぎわいの様子が描かれている。

『東海道名所図会』



宿に入った下町の家並み。
慶安3年（1650）鈴鹿川の氾濫で
1km程上流からここへ移った。

亀山駅からの路線バス
伊勢坂下バス停



現在の本陣裏は茶畠になっている。



本陣跡の標柱



宿の西側の上町の家並み

宿内人口

564人

総家数

153軒

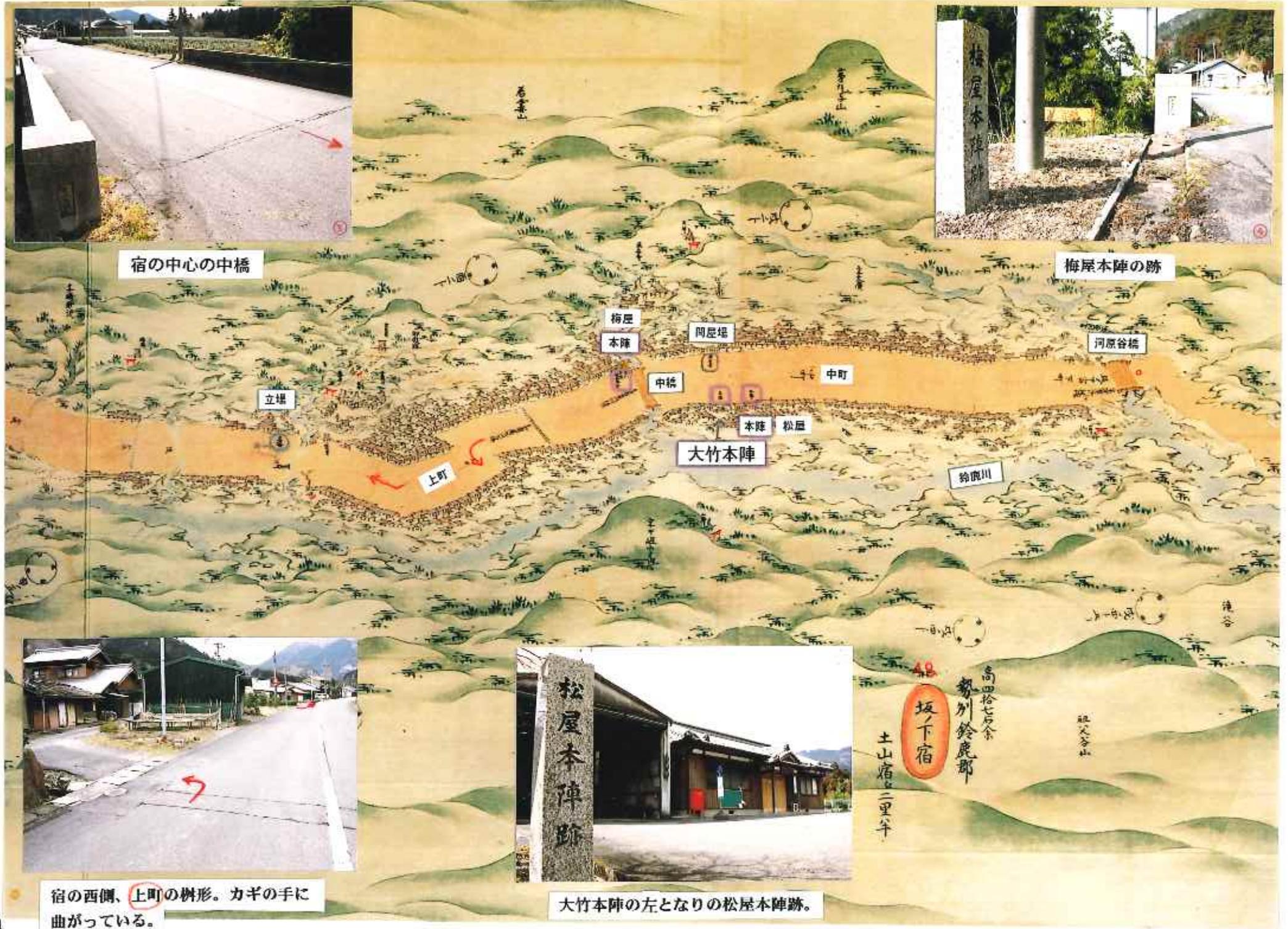
旅籠 48軒

大中小
29軒

29軒

37軒

37軒

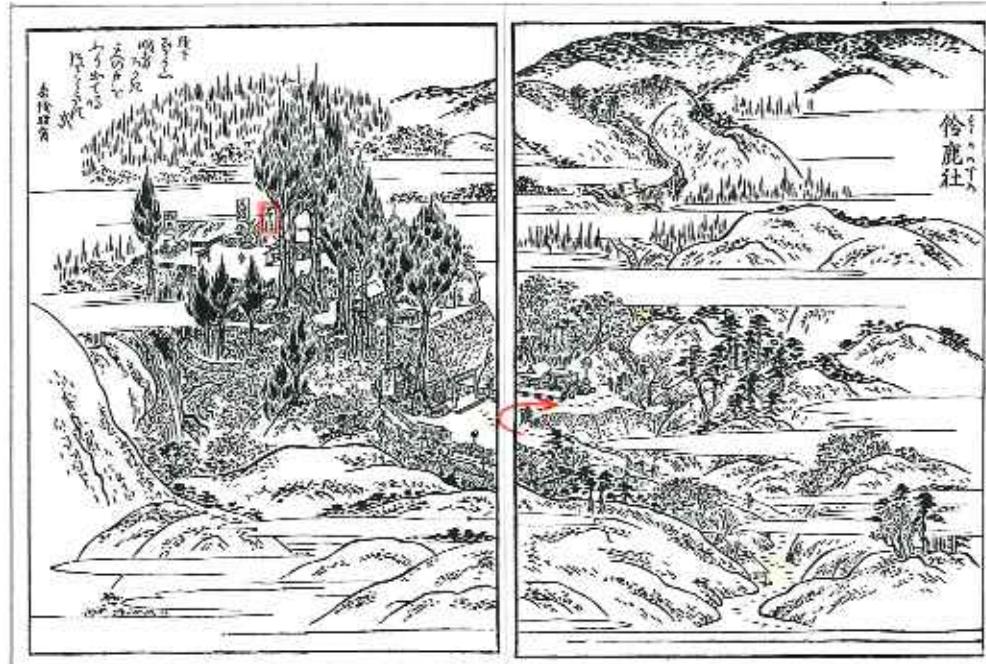




手前が片山神社でここから登りがきつくなる。



坂下宿を出て、右に入る道が鈴鹿峠の入口。
左は鈴鹿峠のトンネルに続く道。



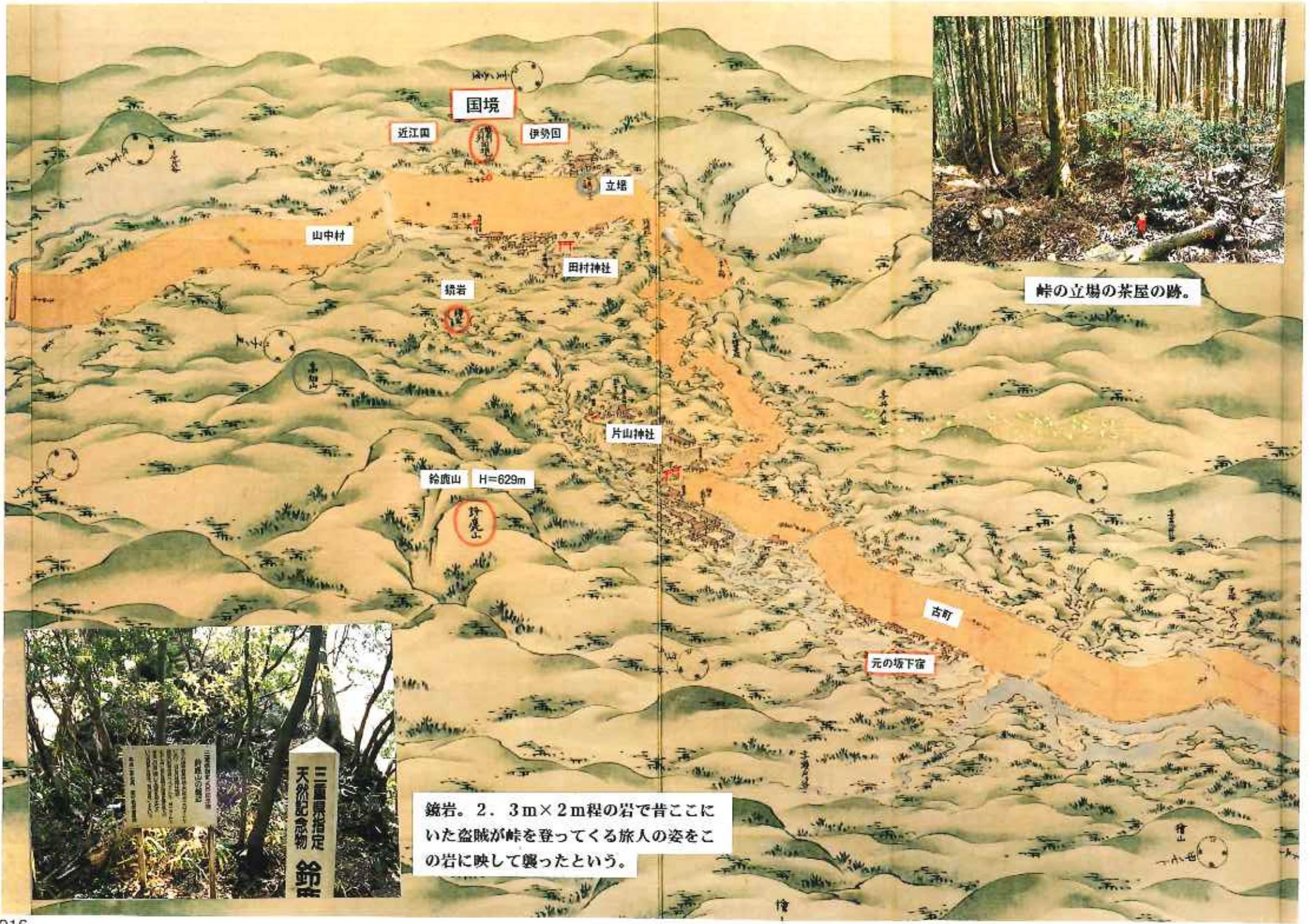
鈴鹿神社(片山神社)

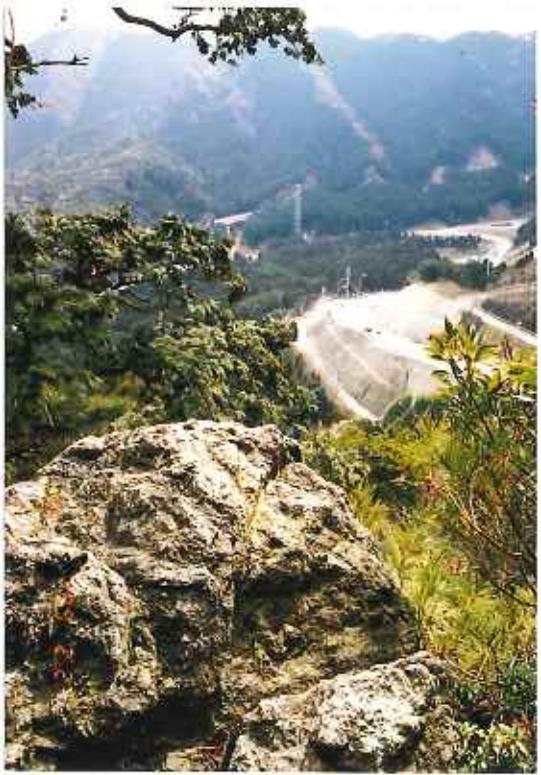
『延喜式』の式内社の古社。

『東海道名所図会』



片山神社の前を峠へ登る。





頂上の鏡岩から下の国道1号線を見る。



峠の石畳の道を登ってゆく。



坂上田村麻呂を祀った田村神社の旧地。元はここにあったが下の片山神社に合祀された。



峠の頂上は少し広くなっている。左を少し行くと鏡岩がある所にでる。



平安時代前期の仁和年間（885～889）
に鈴鹿峠越えの道が開かれた。それ以前は
加太越えだった。





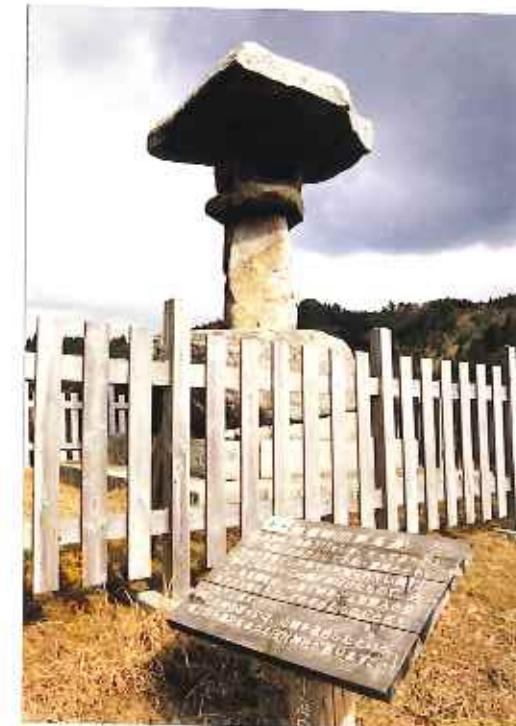
山村村の一里塚跡。左の片側のみの塚。



ここから峠の下り坂となる。



峠を下って1号線と合流する。峠の道はここまで。
日本橋から434kmの標識がある。ここから滋賀
県土山町に入る。



万人講常夜燈。正徳年間（1711～
1716）に設置され、高さ5m重さ
は38tもある。



昔の商家油屋で一里塚のあった所。



昔の蟹河坂村の集落で古い家が残っている。



来見橋を渡り宿の中心部に入る。



田村川を渡り、平安時代の創建で坂上田村麻呂を祀る田村神社の前を左に曲がる。

49 ≪土山宿≫

滋賀県甲賀郡土山町

鈴鹿峠越えの険路を控えて賑わった宿



本陣 2軒

脇本陣 0軒

本陣の近江國の名族土山家。寛永11年
(1636) 3代将軍家光の上洛の際に
建てられた。



宿内は当時の道幅が残っている。

①



本陣の土山家の表札



本陣の上段の間



前田製茶店。土山宿のお茶は室町時代からといわれ
現在も「土山茶」として何件か残っている。

②

宿内人口

1505人

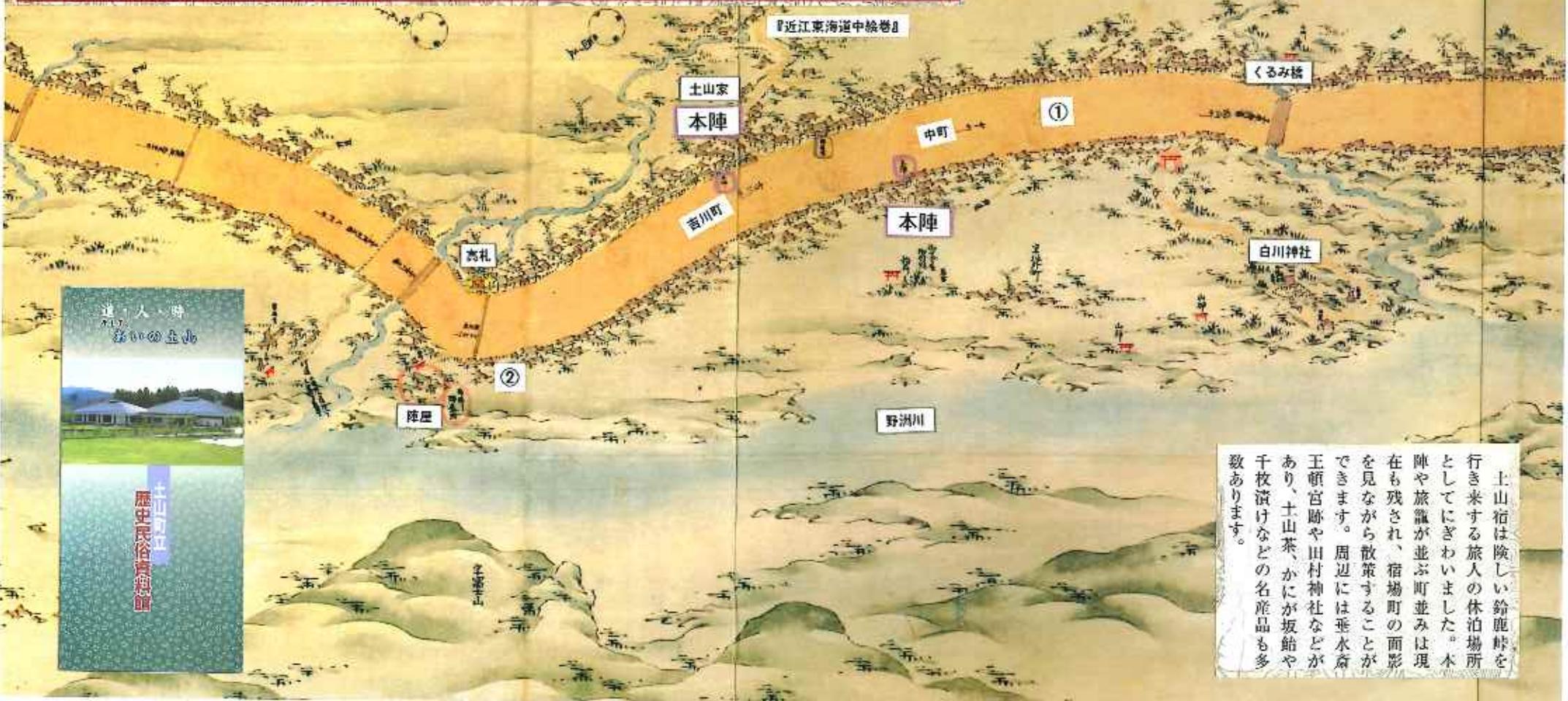
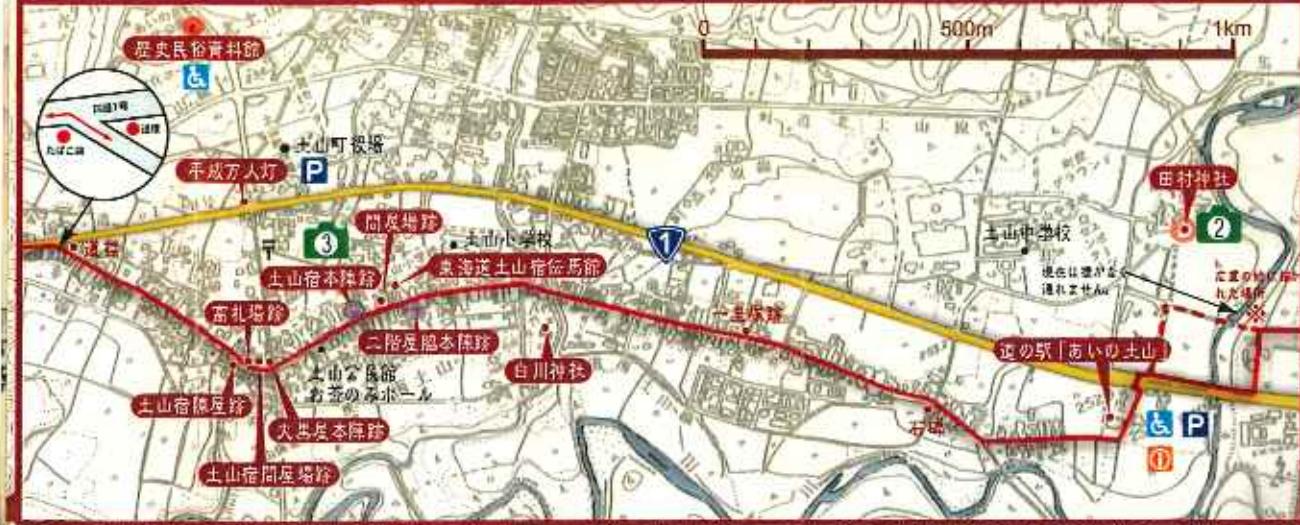
総家数

351軒

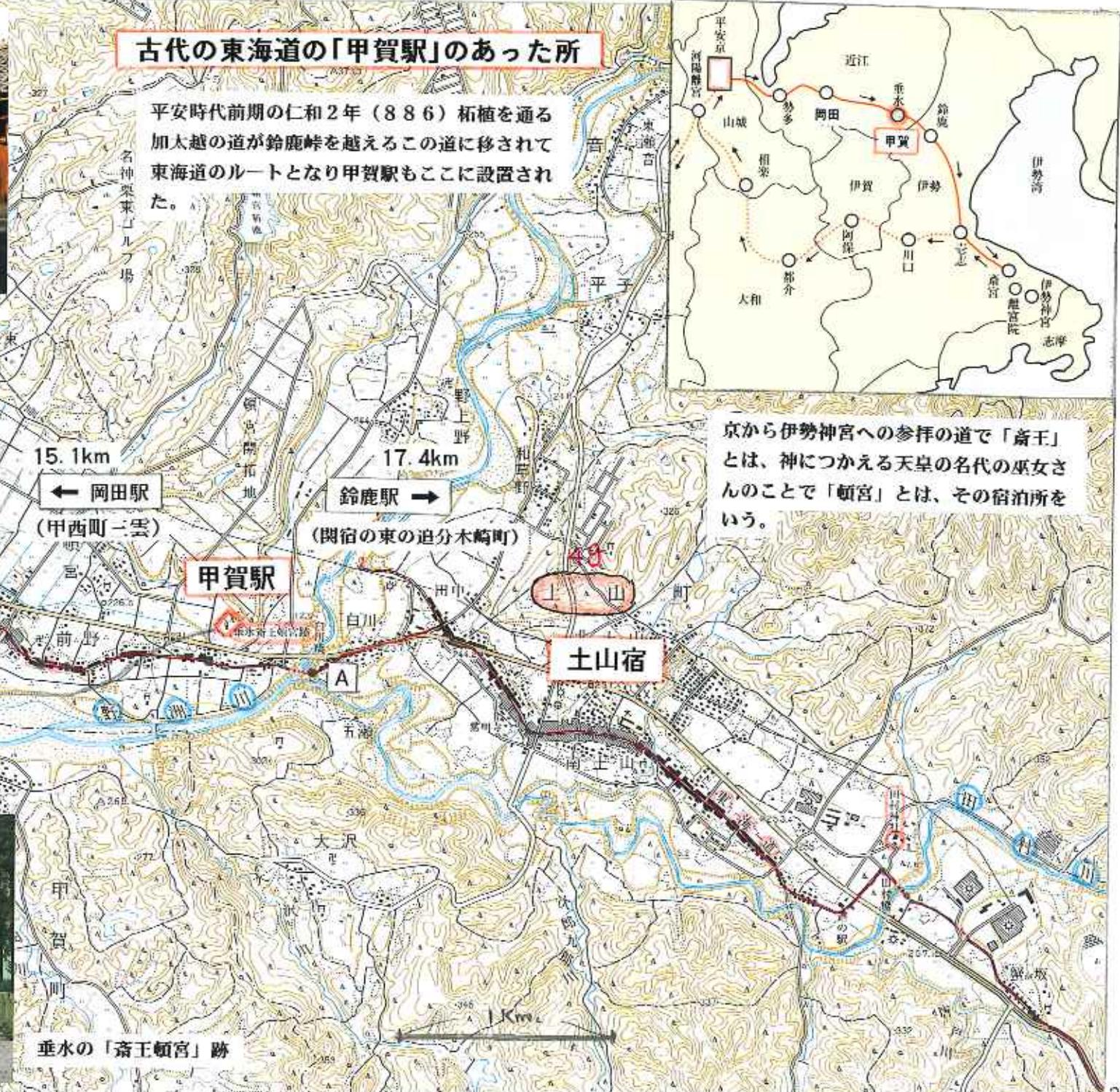
旅籠

44
軒

大
中
小
5
18
21
軒



土山宿は険しい鈴鹿峠を行き来する旅人の休泊場所としてにぎわいました。本陣や旅籠が並ぶ町並みは現在も残され、宿場町の面影を見ながら散策することができます。周辺には垂水庵王頃宮跡や田村神社などがあり、土山茶、かにが坂餡や千枚漬けなどの名産品も多數あります。





朝、関宿の先の市の瀬を出て鈴鹿峠を越えて夕方
5時半もう少しで水口宿へ着く新城町の辺。



上山宿を出て野州川を渡る。



山川橋を渡り水口宿にたどり着く。
今日はここの樹又旅館に泊まる。



土山町市場村の一里塚。



市場村のわらぶき屋根の旧家。

50 『水口宿』

室町時代からの宿場で、水口城の城下町



本陣 1軒
脇本陣 1軒

本陣の鶴銅家のあった所。現在は小公園として整備されていて明治天皇の行在所の碑が建っている。



宿の東の入口。東見付（江戸口）ともいう。
振り返ってみている。手前が宿内。



その少し先でまた2筋に分かれる。真っすぐが本道。



宿に入ると3筋に道が分かれるが、左が本道。

宿内人口

2692人

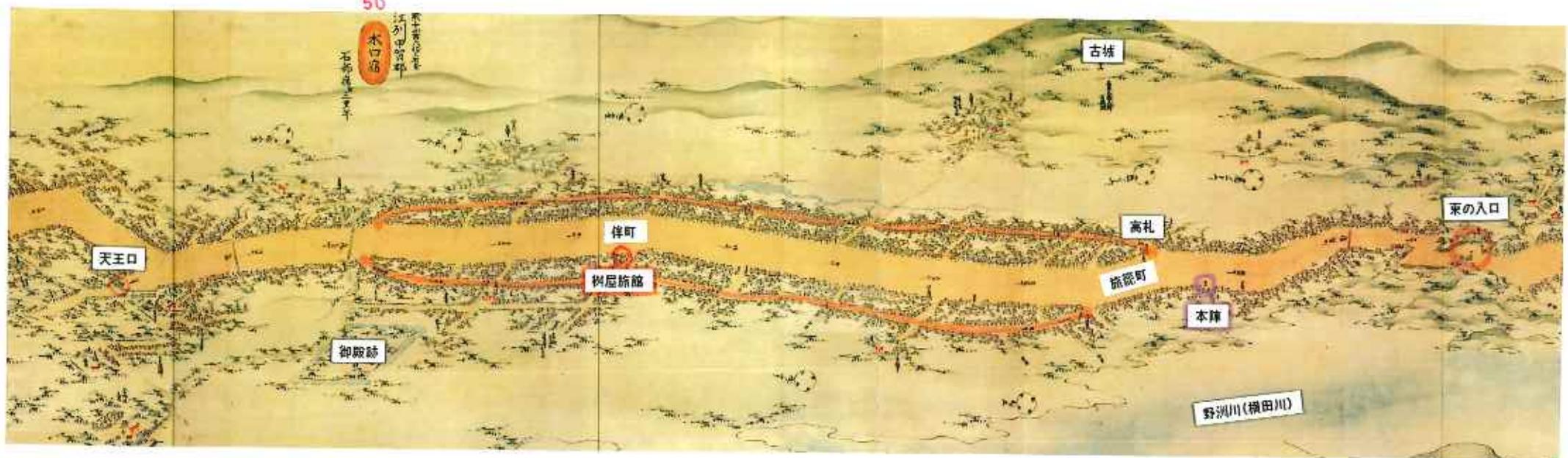
総家数

692軒

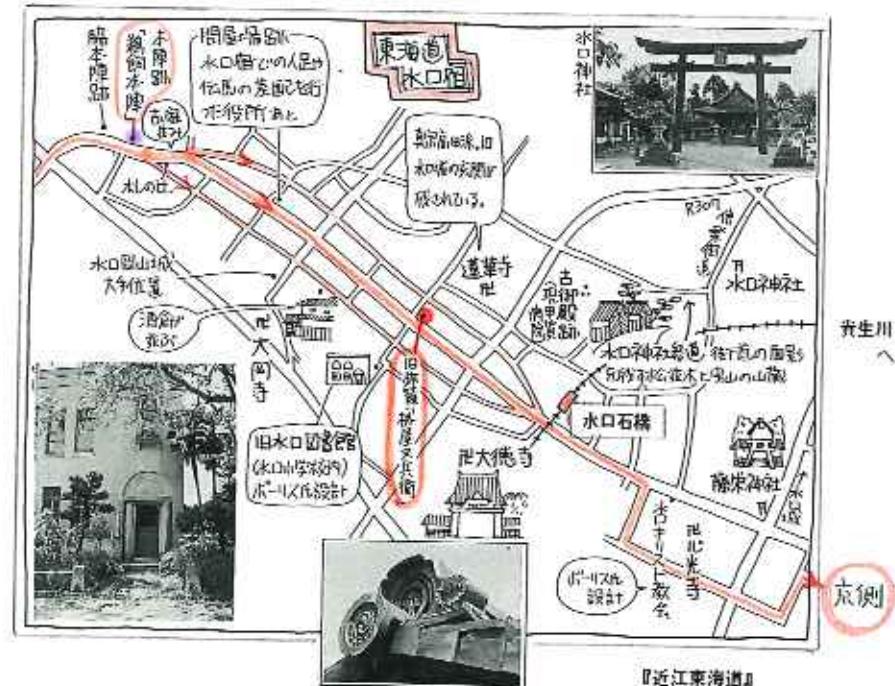
旅籠

41
軒

大
中
小
7
18
16
軒
軒
軒



水口宿内図



3筋の道が通っている。宿泊した「樹屋旅館」も地図にのっている。



翌年の年賀状で営業を止めたとのこと、私が最後の宿泊客だったのかも知れない。



宿泊した旅館の中。2部屋を使わせていただいた。
平成11年2月20日。素泊まりで食事はなかった。



今は駐車場になってしまっていた。アーケードもなくなっていた。

平成30年9月28日撮影



水口町郷土史会

副会長 中村又兵衛

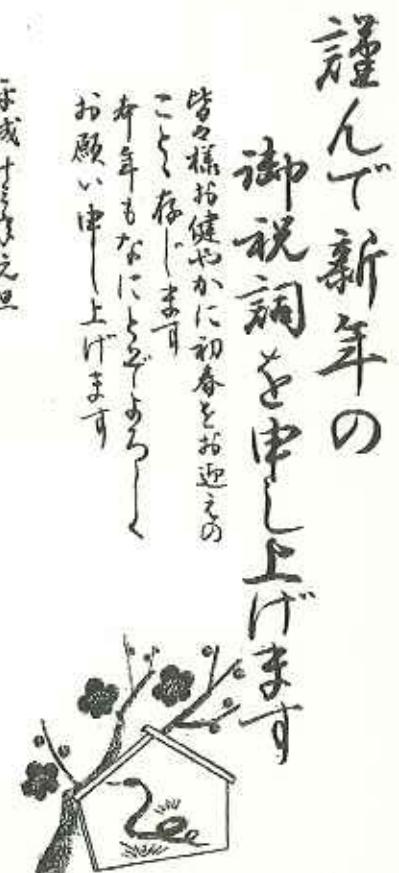
事務局 滋賀県甲賀郡水口町木光
〒528 水口中央公民館内
TEL水口(0748)62-0488
自宅 滋賀県甲賀郡水口町木町2-5-41
TEL水口(0748)62-0032

新元号「令和」
御祝詞を申し上げます
中村又兵衛

丁528-0031
滋賀県甲賀郡水口町木町二丁目五-四一
電話(0748)62-10032番



皆様お健やかに新春をお迎えの
ご一年存じます
新年もなによりあります
お願い申し上げます





水口城。寛永11年（1634）3代将軍家光が上洛する際に、その宿泊所として造営された。



馬つなぎの輪が残っていた。



館を売る商家の看板。



宿の西の出口。京口といい木戸が置かれていた。今は何も残っていない。



3筋の台流する宿の西側。真中が本道。 平成30年9月28日撮影



横田の渡し場の常夜燈。文政5年
(1822) 建立。高さが10m
もあり、石の常夜燈としては日本
一大きいという。



この時気温 5°C



水口宿を出て北脇の直線道路を行く。松並木が
少し残っている。「北脇縄手（真直ぐなあぜ道）
」という名の付いている道。



横田川の渡し場：古くからあった渡し場で、明治の頃
は木の橋だったが、昭和27年下流に1号線の横田橋
が出来た為廃止された。右に大きく迂回して川を渡る。



北脇を過ぎて昔の「立場（休憩所）」があった
泉村をゆく。左のバス停は泉口。



天井川の大沙川のトンネルをくぐる。明治
19年に造られた。



横田川を渡った三雲側にも常夜燈がある。
右は古い東海道の伊賀・伊勢への道で仙街
道といふ。仁和2年(886)以前の東海
道はこの道を通っていた。



JR草津線の三雲駅。古代の
宿駅「岡田駅」のあった所。
この南のあたりにあった。

京都まであと35km

51 《石部宿》

滋賀県甲賀郡石部町
京立ち石部泊まりといい京を出ると最初の宿泊地だった。



本陣 2軒

脇本陣 0軒

本陣の小島家。慶安3年（1650）代官屋敷の跡に建てられた。明治元年（1868）明治天皇が京から江戸へ行幸した時に宿泊した。昭和45年老朽化の為取り壊された。



宿の西側の柳形の道。



J R 草津線石部駅



宿の東の入口の日川米店。

宿内人口

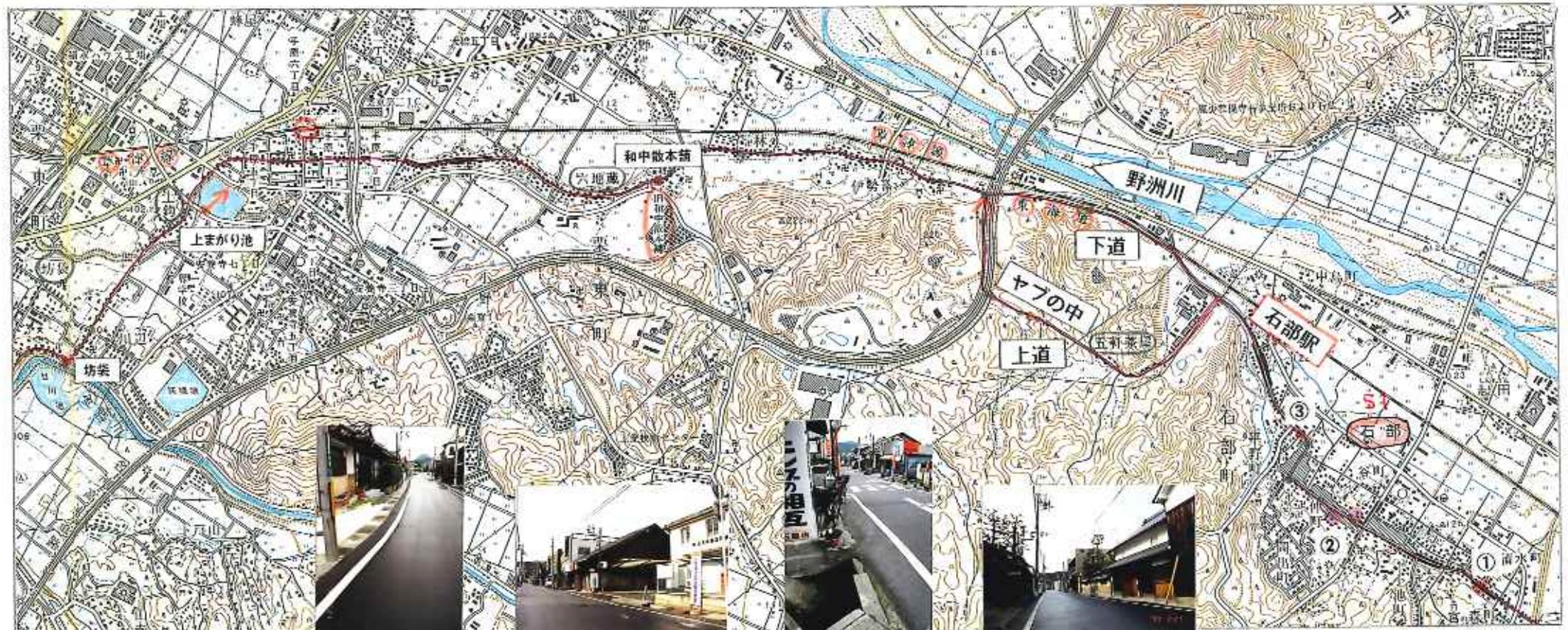
1606人

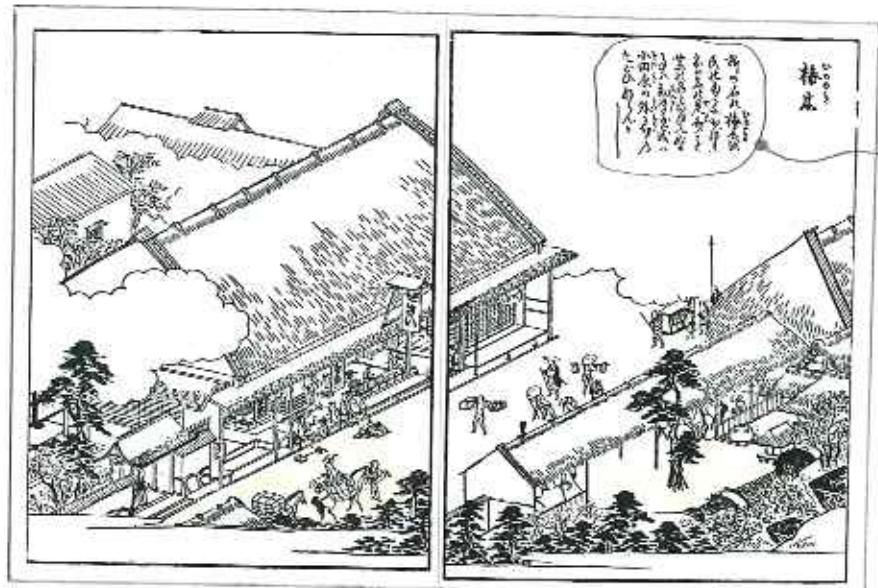
総家数

458軒

旅籠
32軒

大
中
小
4
14
14
軒
軒
軒





絵の文

所の名の梅木を
氏のやうにおぼえ
家の名の是屋を
を樂の名とねば
えめる事は勤早の
外邸或は小田原の
らんかし

和中散本舗の大角家。家康の腹痛を治したおかげで有名になり「和中散」の名も家康が命名したものという。

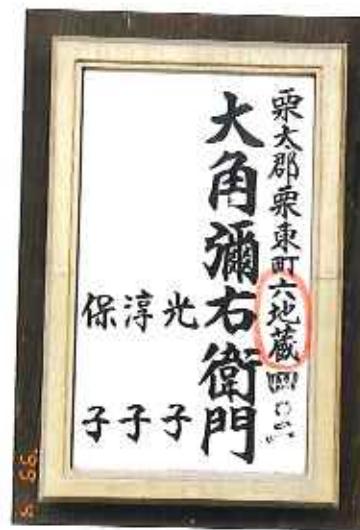
『東海道名所図会』



石部宿を出ると街道が2手に分かれる。左が本道で「上道」といい五軒茶屋があった。直進は「下道」という。



昭和24年国の史跡として指定された。



大角家の表札



ここは昔の古い道がまだ残っている。



草津川に沿って右にまがる。左が草津方面。
ここは昔の坊袋村でバス停にもその名が残
っている。



江戸初期の元和年間（1615～24）の創業で、万病
に効くという「和中散」を売り出した。江戸の近くの大
森にも出店がある。



いよいよ草津市に入る。左の土手道を上るのが本道。
中山道（東山道）と合流する草津宿はもうすぐ。



上鉤池より三上山を見る。4月の頃。

52 『草津宿』

東海道と中山道（東山道）の分岐点でにぎわった宿



延宝8年(1680)建立

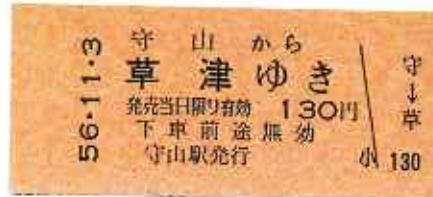
みぎハたうかいとういせみち
ひだりは中せんたうをた加みち

文化13年(1816)の道標。

右 東海道いせみち

左 中仙道美のち

とある



JR 草津駅

平成30年9月28日撮影



右が東海道でトンネルが中山道。天井川の草津川の下に明治19年に開通した。昔は仮橋や歩行で渡っていた。



中山道側から見た合流点。左が東海道。

宿内人口

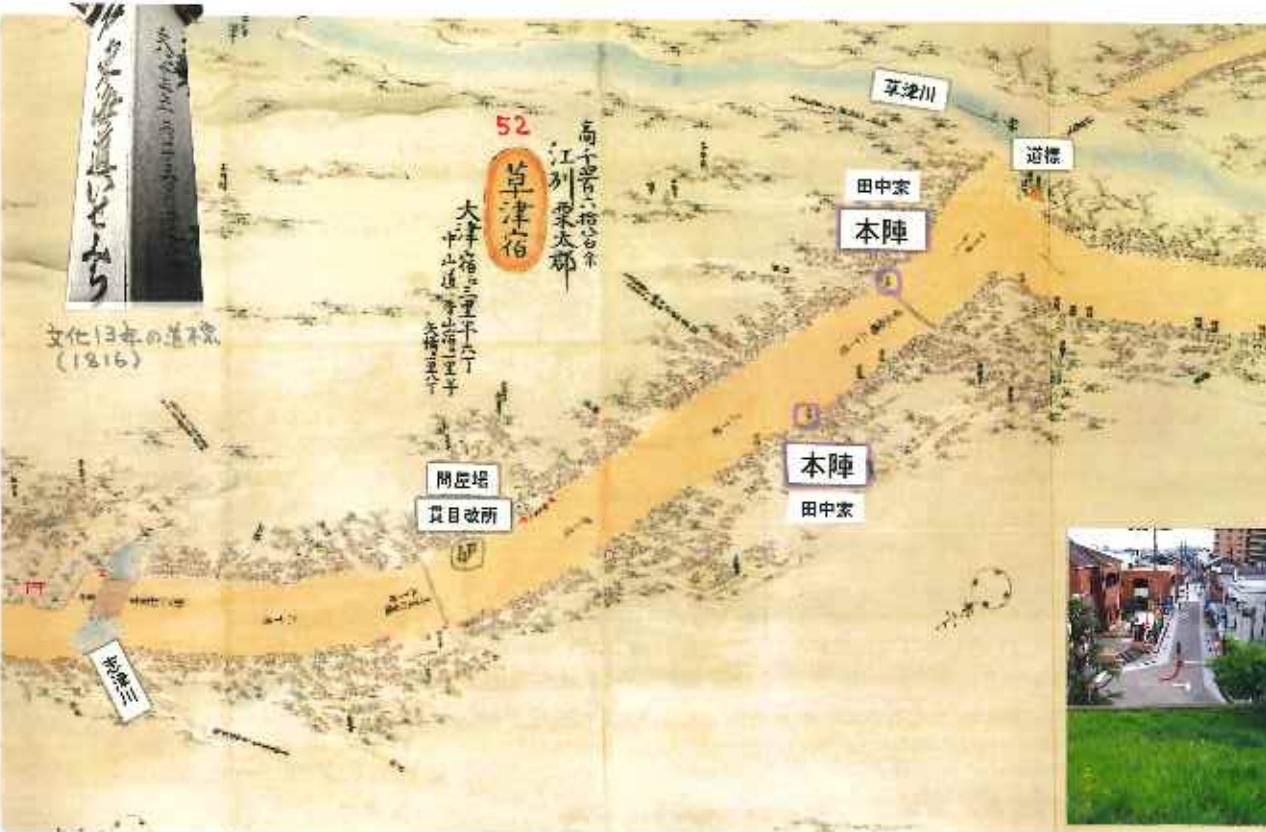
2351人

総家数

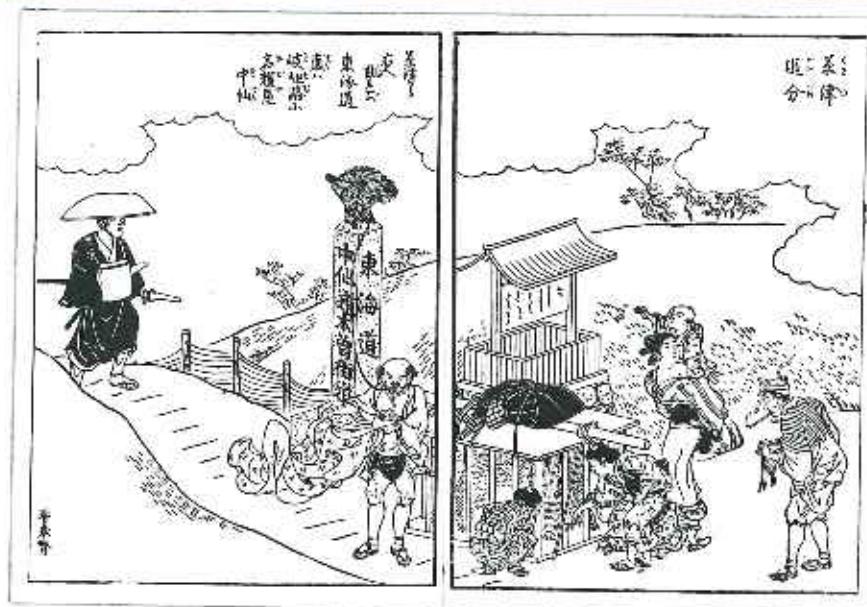
586軒

旅籠
72軒

大7
中18
小49
軒
軒
軒



『広重東海道五十三次』の草津。名物「うばが餅」の店の前の絵で右にある道標は今もある。絵には木の標識が描かれている。



『東海道名所図会』の草津の追分





本陣 2軒

脇本陣 2軒

本陣は2軒で両方共田中家。江戸時代前期の創業で、浅野内匠頭や吉良上野介もここに宿泊している。平成8年に7年がかりで5億4千万の費用をかけて再建された。



上段の間

本陣の間取り



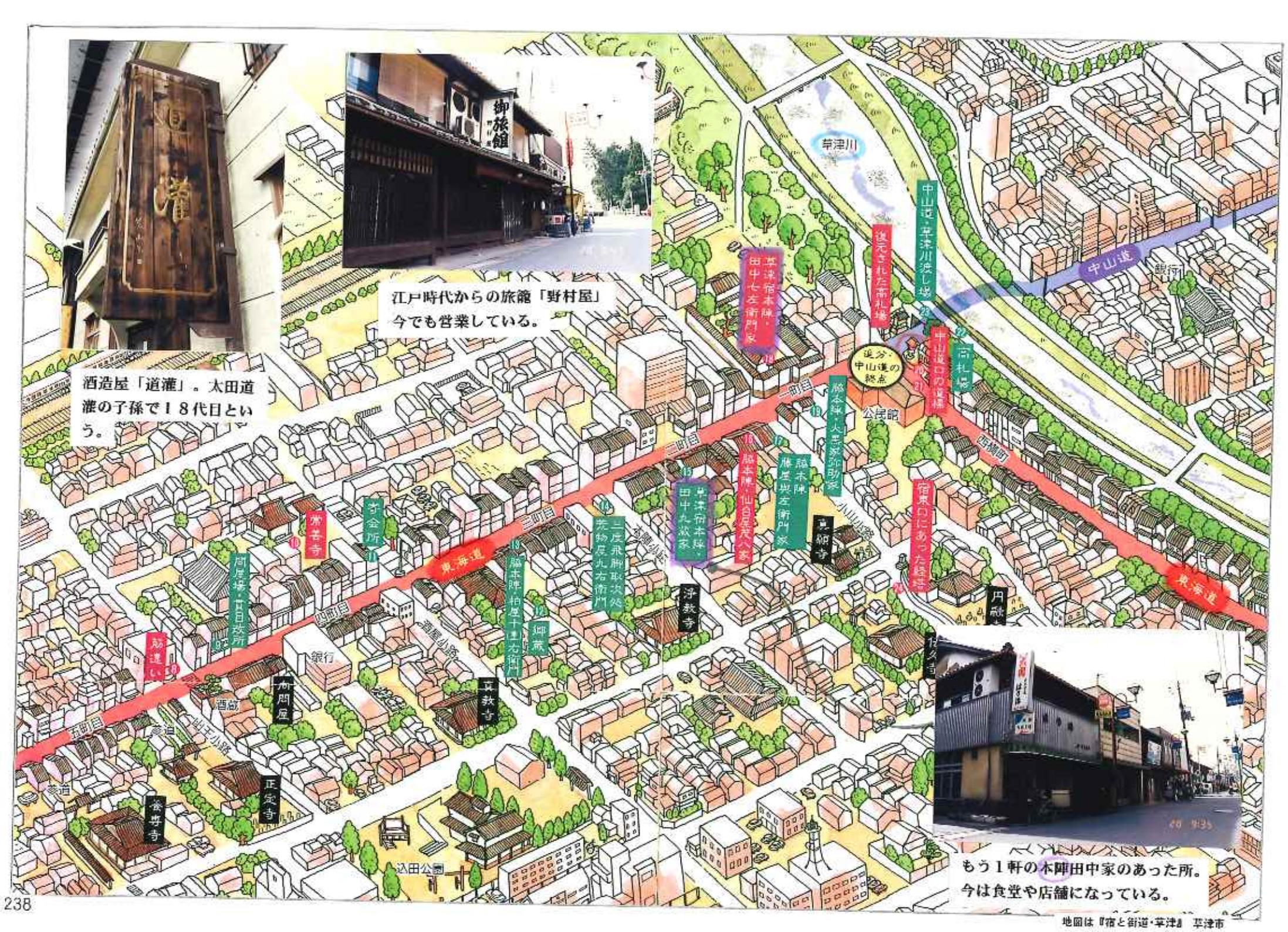
敷地1315坪。建坪459坪。部屋数39。



案内のパンフレット



豈の廊下になっている。



酒造屋「道灌」。太田道灌の子孫で18代目という。

江戸時代からの旅籠「野村屋」
今でも営業している。

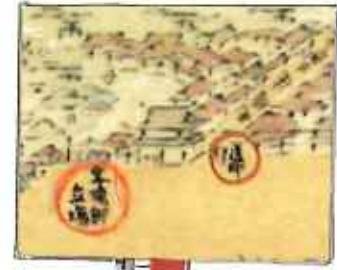
もう1軒の本陣田中家のあった所。
今は食堂や店舗になっている。

地図は『宿と街道・草津』草津市



『東海道名所図会』

「姥が餅」の店先の賑わいの様子。戦国時代の永禄年間
(1558~1570) の創業の老舗。昔の矢倉村。



「姥が餅」の店



草津名物「姥が餅」の店があった所。右に入る道が矢橋道で琵琶湖を船で渡って大津まで行く道。店は今は国道1号線沿いに移転して営業している。



大津市に入った月輪町の街道。

伝統の味と心を今に
伝える「うばがもち」。
羽二重餅を大納言の
こしあんで包み、上
には山芋入りの白あ
んが趣きを添えます。
広重の浮世絵でもお
なじみの銘菓です。



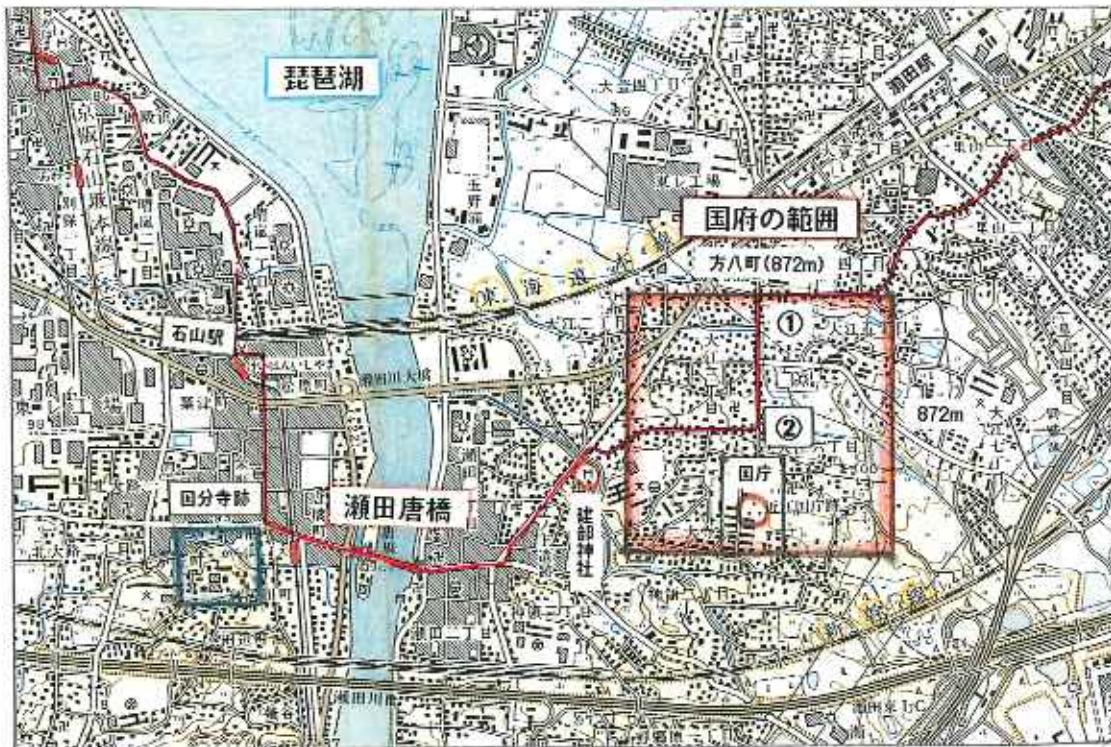
芭翁餅
芭翁市追分町一七
四〇七七五六四内六四九



店の角にある道標「右やばせ道」とある。寛政10年(1789)建て替えられたもの。

近江国の国府があった所

大国



『古代の国府の研究』 国立歴史民俗博物館研究報告 第10集



瀬田橋の東側の昔の橋本村
の名が残っているバス停。



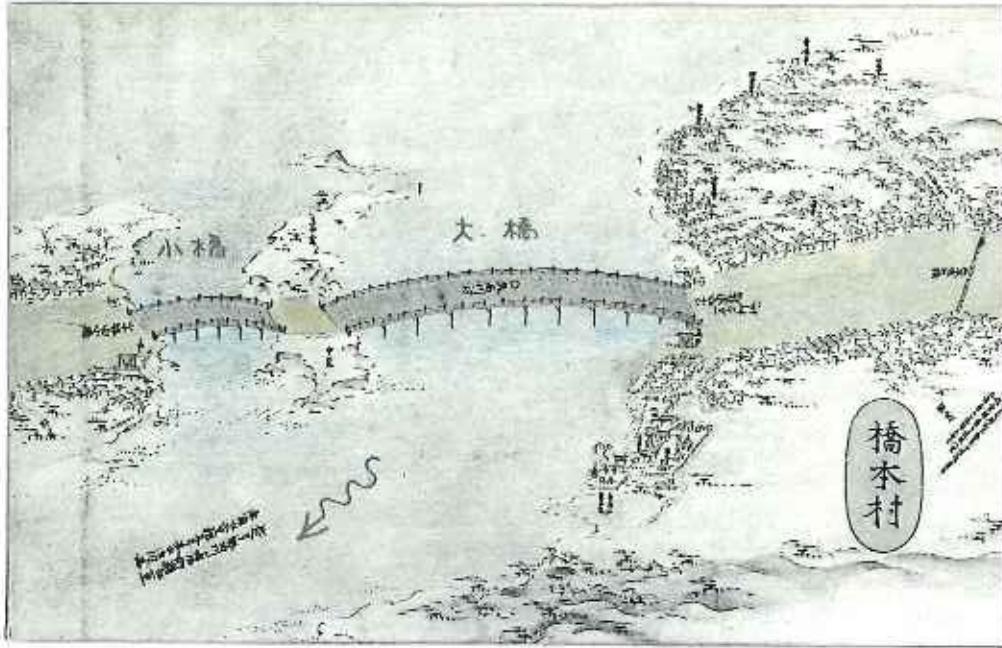
建部神社前のバス停。
近江国の一の宮で、
景行天皇46年（116）という古い神社。



左の地図の①の地点で、国府の北の入口。ここは草津市大江町。



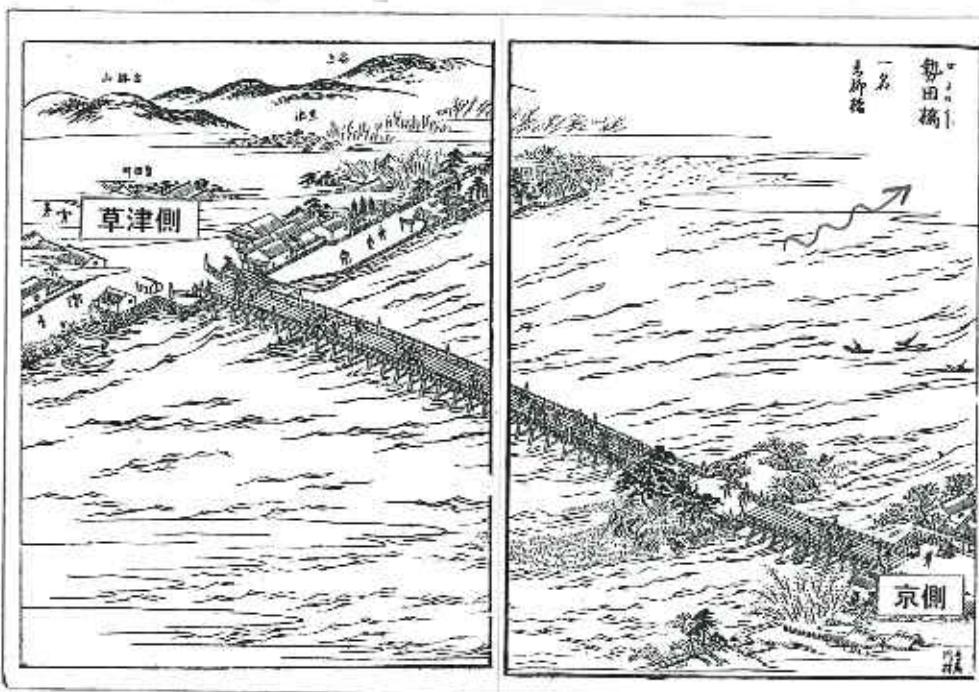
国府の真中あたりを右折する。②の地点。この道を直進すると国府の国庁があった所へ出る。



天正3年（1575）少し下流から今の所へ移された。



“瀬田の唐橋を制する者は、天下を制する”といわれる都の重要な橋。今まで20回程も架け替えられた。現在の橋は昭和54年に完成した擬宝珠付きの橋。



『東海道名所図会』の瀬田橋。左が草津側。



琵琶湖の流れの出口はここしかない。橋の北側の様子。



膳所城下の古い町並みをゆく。城下町らしく曲がりが多い。ここは昔の下浜田村。

晴嵐一丁目
3



橋の西側。この先250m程で右に曲がり琵琶湖に沿って北に進む。



膳所城の大手門。この奥はすぐ琵琶湖である。関ヶ原の合戦のあと、家康によって築かれた城で本多氏6万石の城下町として栄えた。



JR石山駅。駅の向こう側を北にむかう。

53 ◇大津宿◇

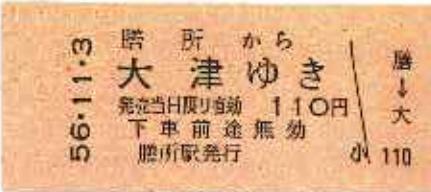
53次の最後の宿場で、京までもう一息だ！



本陣 2軒 本陣大塚家のあった所。もう1軒の肥前屋本陣は道の反対側の少し先にあった。
脇本陣 1軒



宿内の古い町屋の家並みが続く。



J R 大津駅



弘化2年(1845)
の常夜燈。船の日印。



大津宿の入口にある船着場。
草津の矢橋から約5km。

| | |
|------|-------------------|
| 宿内人口 | 14892人 |
| 総家数 | 3650軒 |
| 旅籠 | 71軒 |
| 大中小 | 19軒 27軒 26軒 |



鮓寿司を売る元祖「阪本屋」



宿の中心となる「札の辻」の交差点。ここは東海道と北国街道との分岐点でたいへん賑わった所。右が北国街道で東海道は左へ曲がる。



随所に案内の
標識が設置さ
れている。

京への逢坂峠と続く。今の国道161号線。



同じ交差点を振り替えってみる。信号の右からくる
のが東海道。



琵琶湖

